



化学部門教員と大学院生らが教育支援センター「くすの実」で 理科実験教室を実施(5)

【概要】

令和 3 年 10 月 15 日(金)に、不登校支援機関の教育支援センター「くすの実」にて理工学部 長田 聡史 教授と先進健康科学研究科（理工系）の大学院生らが本年度 5 回目の理科実験教室を実施しました。

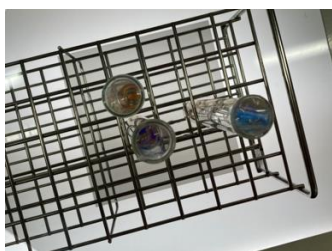
【本文】

理科実験教室支援活動は、佐賀市教育委員会の不登校支援機関である教育支援センター「くすの実」の要請により、理科への興味をきっかけに子ども達の就学意欲を芽生えさせることを目的として行なっています。

令和 3 年度第 5 回となる令和 3 年 10 月 15 日(金)は、「光の世界」と題して、光の波としての性質を理解してもらうために偏光板を用いた理科実験を行いました。当日は、理工学部化学部門 長田 聡史 教授とともに、先進健康科学研究科（理工系）の大学院生と理工学部機能物質化学科の学生が参加しました。

最初に、2 枚の偏光板を重ね、片方の偏光板を回転させると光の透過の度合いが変化することを観察することで、偏光板が光の波の振動方向をそろえることについて説明しました。次に、教育支援センターに導入されたばかりの電子黒板の画面を 1 枚の偏光板を通して見る実験を行いました。偏光板 2 枚を重ねたときのように角度を変えると電子黒板の画面が見えなくなる様子を観察することで、身近な製品に偏光板が使われていることを生徒たちに実感してもらいました。続いて、砂糖の光学活性という性質を理解してもらうために、偏光板の間に砂糖水を挟む実験を行いました。原理の説明は少し難しかったと思いますが、偏光板の角度によっては透明な砂糖水がオレンジや青に着色して見える意外さに驚きの声をあげていました。

最後にセロファンテープの性質を利用した万華鏡を作る工作実験を行いました。子どもたちはお気に入りの模様ができるように何度もチャレンジしていました。



「理科実験教室」の様子